

研究室名	食品分析学研究室、先端機器分析センター 論文発表
------	---------------------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

発表時期	2020年
題名	Effects of whey protein hydrolysate on growth promotion and immunomodulation in mouse pups in artificial rearing system
掲載雑誌	Animal Science Journal, 91(1):e13395, 2020.
著者	Shiro Takeda ¹ , Akiko Harauma ² , Mariko Okamoto ¹ , <u>Hirofumi Enomoto</u> ^{3,4} , Toshiji Kudo ⁵ , Takehito Suzuki ¹ , Wataru Mizunoya ¹ , Toru Moriguchi ² <small>1麻布大・獣医、2麻布大学・環境、3帝京大・理工、4帝京大・先端機器分析センター、5ブルカージャパン（株） （本学教員にはアンダーライン）</small>
概要	最近の育児用粉ミルクは母乳に近づいてきたといわれるが、母乳が理想の栄養であることはいうまでもない。麻布大学の竹田准教授らは乳児期のマウスを用いて、人工調製ミルクへのホエータンパク質加水分解物（WPH）の添加がその生育が促進し、さらに免疫系を調節する可能性を示した。現在、MALDI-TOF/TOF分析はペプチドのアミノ酸配列を解析するための主要なツールとなっている。本食品分析学研究室ではMALDI-TOF/TOF-質量分析装置を用いて、生理活性分子と予想されるWPH中のペプチドの同定を担当した。
関連画像	 <p>実験に使用したMALDI-TOF/TOF-質量分析装置、 ultrafleXtreme (Bruker)</p>